

高円寺南一丁目（旧中山谷）所在民間信仰石造物



- 〔登録年月日〕平成一五年三月一二日
〔種別〕有形民俗文化財（信仰）
〔名称〕高円寺南一丁目（旧中山谷）所在
民間信仰石造物
〔点数〕五基
〔所有者等〕高円寺天祖神社
高円寺南一―一―一九
高円寺南一―一六―一九
（高円寺天祖神社内）

有形民俗文化財（信仰）

高円寺南一丁目（旧中山谷）所在民間信仰石造物

旧高円寺村小字中山谷に造立されたこれらの石塔五基は、旧阿佐ヶ谷村世尊院方面に通じる中通り道と青梅街道の近くに安置されていた。しかし、環状七号線の建設以降の数回の移設の結果、享保一三年（一七二八）銘六十六部供養塔は天祖神社に移され、残った四基は、中通り道とビルに挟まれた略三角形の地に移された。

略三角形の敷地に移された四基のうち、寛文一〇年（一六七〇）と享保六年（一七二二）銘の阿弥陀塔二基は北向きに、元禄七年（一六九四）銘と正徳三年（一七一三）銘の庚申塔二基は庚申堂内に西向きに安置されている。阿弥陀塔のうち、寛文一〇年銘は区内で三番目に古い阿弥陀塔で、享保六年銘は寒念仏供養塔としては比較的早い時期のもので区内では唯一の例である。二基の庚申塔は区内で庚申塔の造立が盛んな時期のものである。

天祖神社境内左手の南側参道脇に安置された享保一三年銘六十六部供養塔は、六十六部供養塔としては区域東部で唯一の残存例である。

本石造物群は、青梅街道沿いに存在する民間信仰石造物群のひとつで、ほぼ当初の位置に近い場所に保存され、損傷も少なく、造立当初の姿を残している。区内では比較的早い江戸時代前期に造立されたもので、造立の主旨・像容も庚申塔・寒念仏塔・阿弥陀塔・六十六部供養塔と多様で、当時の庶民

の民間信仰の姿をよく示す民俗学的に重要な資料である。

【文化財所在地】

